

山下地区安全・安心まちづくりプラン



山下地区の遠景



地域の特産物「浜なし」



小山地区の稲作の天日干し



山下地域交流センター



地域の足 山下地区「ささえあいバス」

山下地区安全・安心まちづくり協議会

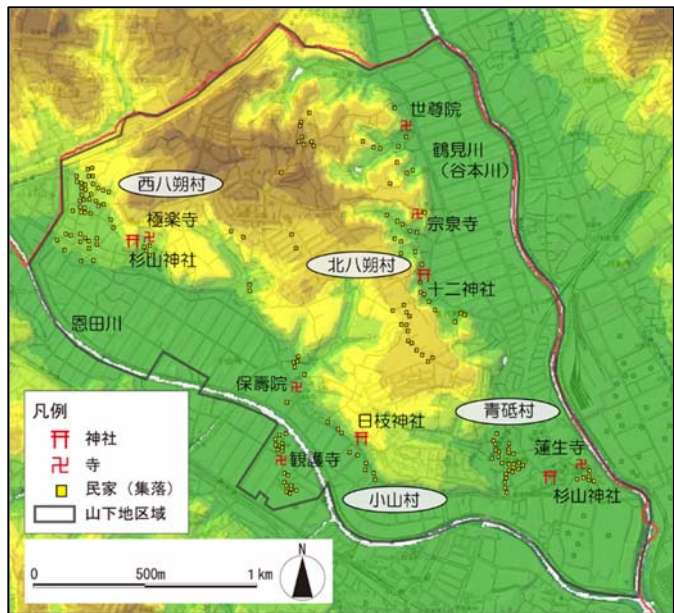
令和2年12月改定

1 山下地区の成り立ち

山下地区は、緑区の北側に位置し、東西を鶴見川(谷本川)と恩田川に挟まれ、北を東名高速道路で区切られた三角地帯で、その中央には丘陵地帯がある特徴的な地形をなす地区です。

元来、二つの川の肥沃な河岸段丘では耕作がなされ、丘陵地帯を里山としその裾野には集落を配し村が形成されてきました。

現在の山下地区もこうした村時代の構造を基盤として成り立っています。



*現在の地形・道路図に明治14年の神社仏閣及び民家(集落)を重ねたもの

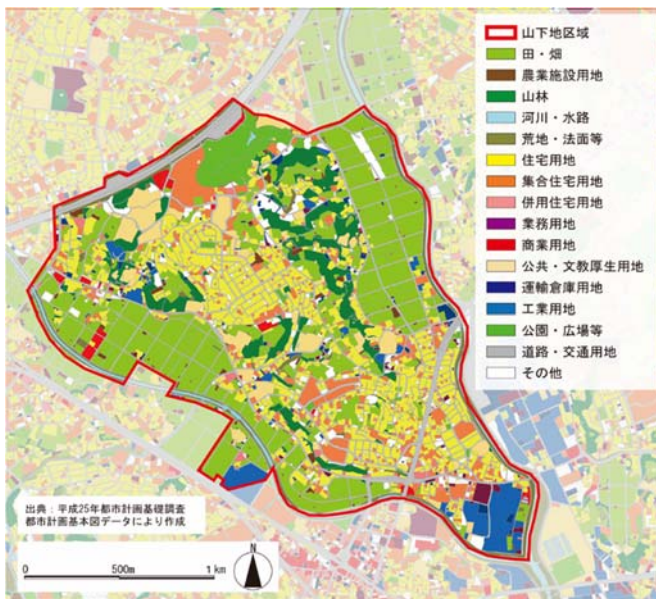
2 地区の状況と

まちづくりの進捗状況

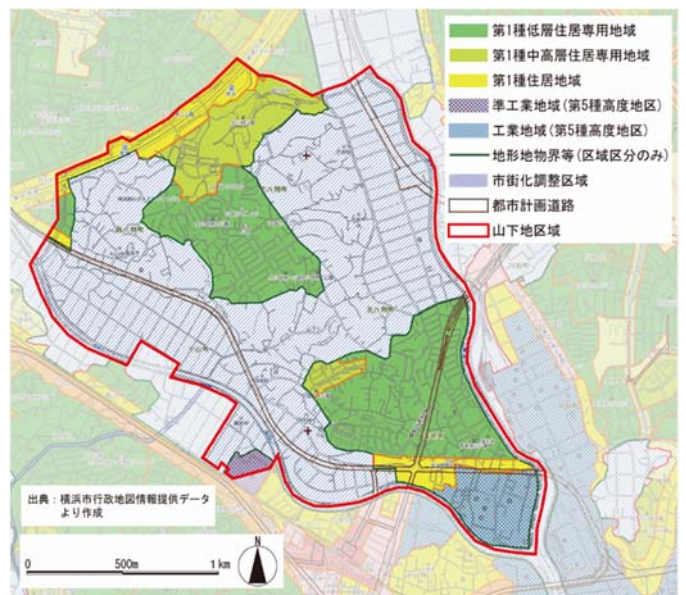
(1) 地区の状況

山下地区は農地と樹林地が地区の大半を占めていましたが、昭和30年代頃から青砥地区に工場と住宅地が出来、昭和45年には二つの川の河岸段丘が市街化調整区域、農用地区に指定され、「浜なし」や稲作・近郊野菜の栽培が盛んになりました。同時に丘陵地帯と青砥地区が市街化区域に指定され、新しい市営住宅の建設や戸建の住宅団地が造成され、農と住が結びついた閑静で自然豊かな地域となりました。

そして平成26年には、都市計画道路「中山北山田線」が開通、令和2年には「横浜北西線」が開通するなど地域が大きく発展しました。現在(令和2年)、人口は約16,000人、高齢化率は26%弱と超高齢社会の地区でもあります。



土地利用現況図



都市計画図

(2) まちづくりの進捗状況

平成 26 年 2 月のまちづくりプラン策定以降、様々な取り組みや整備が進められ、その成果を以下に纏めます。

【A 活動拠点】

- ・山下地域交流センターの施設整備進む
 - ⇒ 和室のフローリング化を完了 (H27.3)、図書室リニューアル・オープン (R1.7)
- ・山下地区ネットワークサロンの開設 (H28.4)：《緑区課題チャレンジ提案事業》
 - ⇒ 山下地区内 16 か所に開設、地域の人達のつながりの場・憩いの場として拡大
- ・横浜北西線トンネル上部公用地の利用検討進む
 - ⇒ 山下地域ケアプラザの建設決定 (R3.4 開所予定)、消防訓練所の整備 (R2 予定) および消防積載車置場の建設 (R2 予定) 等決定

【B 交通】

- ・青 81 系統 (東急バス) の中山駅北口までの延伸完了 (H26.5)
 - ⇒ 延伸完了後に 1 日 11 回運行、利用客も目標の 1 便当たり 14 名を達成
- ・山下地区内を通る新しい幹線道路が完成
 - ⇒ 都市計画道路「中山北山田線」の全線(青砥町～都筑区見花山)の供用開始 (H26.7)
横浜北西線 (東名高速道路～第三京浜道路と横浜北線) の開通 (R2.3)
- ・山下地区コミュニティバス「ささえあいバス」の実証運行完了 (H28.12～H31.3)
 - ⇒ 多くの経験と知見を取得、本格運行へ繋がる
- ・横浜で初めて地域の人達が運行する「ささえあいバス」の本格運行を開始 (H31.4～)
 - ⇒ 買物便とグループ便を新たに追加、買物便は高齢者に大変好評

【C 歩行者空間】

- ・尾根道の歩行者通路の改修が進展 (H26～R1)
 - ⇒ カラーベルト・側溝の改修、大和田商店のある坂道の拡幅工事完成など
- ・スクールゾーン協議会での子供の安全通学に向けた取り組みが進展
 - ⇒ 緑土木事務所、区役所、緑警察署の協力により順調に要望の安全対策が進む

【D 農業】

- ・北八朔日曜朝市直売会の開催が軌道に乗る
 - ⇒ 毎月第二日曜日に北八朔上自治会館前で開催、多くの地域の人達が利用、好評
- ・北八朔農産物直売所が北西線トンネル上部に移転 (R2.2)
- ・農業施設整備、農業情報発信拠点育成、中山駅近郊農地の都市機能導入などの取り組み
 - ⇒ 北八朔農業活性化推進協議会の勉強会開催 (年 4 回) (H26～)
 - ⇒ 小山町の課題を考える会の役員会開催 (不定期) (H26～)
- ・市有地を活用した菜園づくりが進展 (H27～)
 - ⇒ 北八朔町 1889-32・33：北八朔自治会子ども会の農業体験の場として利用
 - ⇒ 北八朔町 2108- 3 ・ 4：山下みどり台小学校生徒の農業体験の場として利用

【E 自然環境】

- ・北八朔公園愛護会による公園の自然環境整備と保全、イベント開催による地域の人達への憩いの場の提供活動が進む
 - ⇒ グリーンフェスタ、ホテル鑑賞会、ソーメン流し、リース作り、どんど焼きなど多くの地域住民が参加、ふれあいと親睦を深めている

【F 防災】

- ・山下小学校、山下みどり台小学校地域防災拠点の実働訓練の実施（毎年9月と2月）
 - ⇒ 訓練マニュアルに基づく多視点からの避難所運営のための訓練を実施
 - ⇒ 備蓄庫にある資機材のメンテナンスと備蓄品の点検・入れ替え
 - ⇒ 山下小学校地域防災拠点では「災害用ハマッコトイレ」の設置完了
- ・農地の「防災協力農地」への登録推進
- ・洪水対策としての恩田川遊水地整備事業が、小山町上地区にて実施決定（H30.3）
 - ⇒ 地権者、地元への遊水地整備事業に関する説明会を実施済み、用地測量終了
 - ⇒ 工事に伴う諸課題対応窓口として恩田川遊水地整備対策協議会を発足（R1.12）

【その他】

- ・防犯体制の再構築と活動の充実が進展
 - ⇒ 青パトによる昼間・小学生下校時・夜間の防犯パトロール体制を強化、また、最新機器を装備した新青色パトカーが導入（R1.12）され巡回の安全性が向上
 - ⇒ 小学生を対象とした防犯講座を毎年開催（H28～）、親子で受講、子ども自身が犯罪から身を守る意識の高揚を図る
- ・安心安全美化運動の推進：《緑区課題チャレンジ提案事業》（H29～H31）
 - ⇒ 「エコ生活を考える会」による寄せ植え講習会開催、地域のつながり作りと高齢者の見守りに貢献
- ・生活支援事業の推進：《緑区課題チャレンジ提案事業》（H31）
 - ⇒ 山下ボランティアセンターと山下チョイボラの会を設立（H31.4）、「チョットした困りごと」に手を差し伸べる生活支援活動の試行を経て本格運用に入る（R2.1～）
 - ⇒ 支援メニューは「草刈り」「枝切」「電球交換」「家具の移動」「部屋の清掃・片付け」
- ・山下地区安全・安心まちづくりニュースの発行
 - ⇒ 年2回の発行を継続（H26～）

【まちづくりの進捗状況】

・地区内全体を対象とした項目

・「ささえあいバス」本格
運行を開始(H31.4～)

・防犯体制の再構築と
活動の充実

・生活支援事業の本格
運用開始(R2.1～)

・愛護会の自然環境整備
と保全活動

・北八朔日曜朝市直売会
の開催が軌道に乗る

・市有地を活用した子ども
菜園が二か所に実現

・山下地域ケアプラザ
建設決定(R3.4開所予定)

・北八朔農産物直売所の
移転

北八朔公園

山下みどり台
小学校

鶴見川
(谷本川)

横浜北西線トンネル
上部用地

横浜北西線
(併用開始R2.3)

川和町駅

西八朔町

市街化調整区域

北八朔農業専用地区

市街化調整区域

北八朔町

・尾根道の歩行者通路の
改修が進展(H26～R1)

・青81系統の中山駅北口
までの延伸実現(H26.7)

・恩田川遊水地整備事業実
施決定(H30.3)

恩田川

山下小学校

山下地域交流
センター

・和室のフローリング化(H27.3)
・図書室のリニューアル(R1)

凡例

A = 活動拠点

B = 交通

C = 歩行者空間

D = 農業

E = 自然環境

F = 防災

その他

市街化調整区域

農用地区域

北八朔農業専用地区

* 点線や矢印で示したものは
大枠を示したものであり、
位置や区域などを正確に
示しているものではありません。

中山駅

中山北山田線
(併用開始H26.7)

鶴見川

0 500m 1km



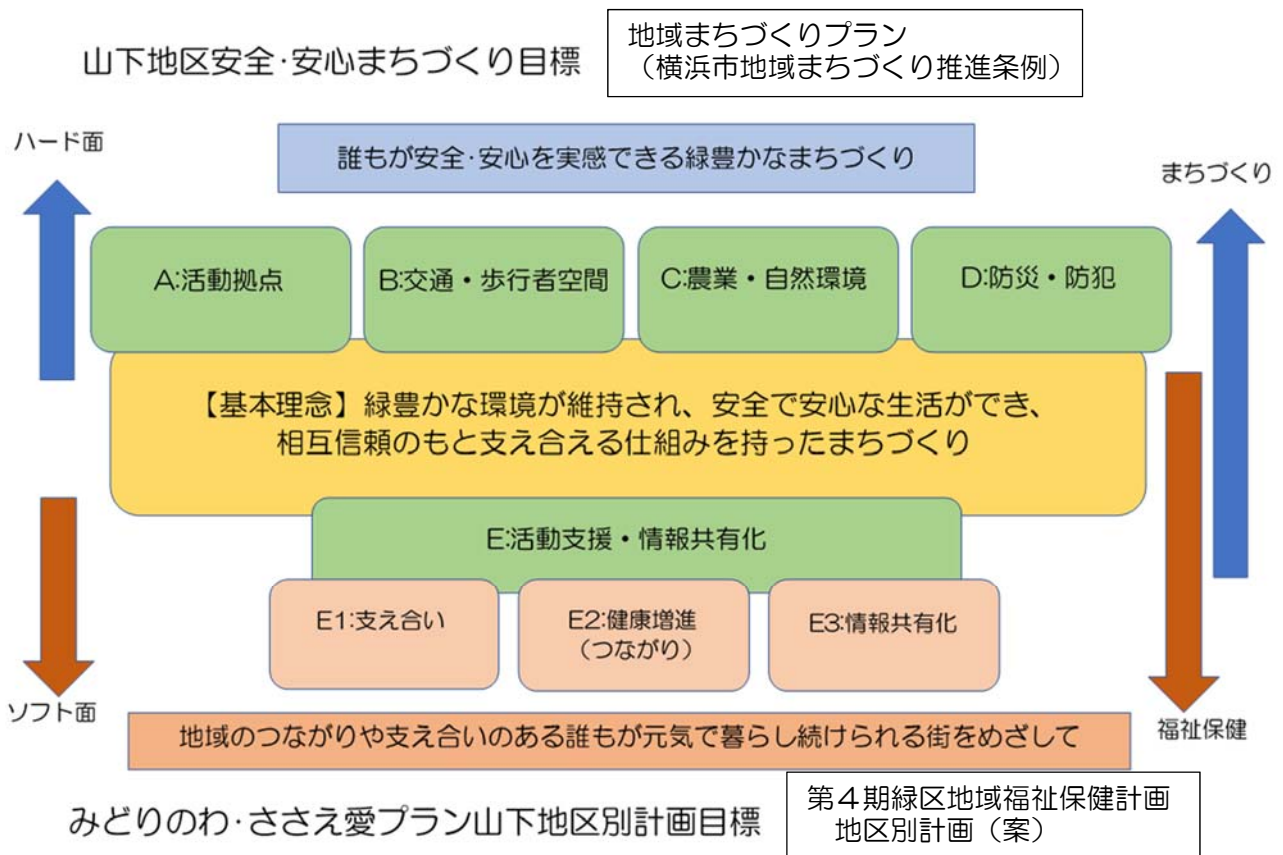
3 まちづくりプランの改定

平成26年2月より実施した「安全・安心まちづくりプラン」は、活動拠点の不足や地区内を相互に結ぶ公共交通機関が乏しいこと等の課題を解決し、地区内外における人とのつながりを強め、様々な地域活動を通じてコミュニティが活性化することを目指してきました。これまでの活動は多くの成果を生み、まちづくり目標として掲げた『地区内外とのつながりを大切にしたまちづくり』に基づく具体的な方針の多くが達成・整備されてきています。またテーマによっては見直しを図った方が良いと考えられるものもあります。

そこで令和の新しい時代の初めに当たり、また少子超高齢社会の進展に対応すべくまちづくりプランの改定を図り、更に安全で安心なまちづくりを進めることにしました。

令和の時代に向けた「安全・安心まちづくり」の基本理念は、今まで培ってきたまちづくりプランの成果の上に立ち、「緑豊かな環境が維持され、安全で安心な生活ができ、相互の信頼のもと支え合う仕組みを持ったまちづくり」を目指すことにしました。

下図にプランの全体概念図を示しました。



☆ 山下地区安全・安心まちづくり目標 ☆

『誰もが安全・安心を実感できる緑豊かなまちづくり』

安全・安心まちづくりや少子超高齢社会の進展に対応した「安全」「安心」とは、どのような状態を考えれば良いでしょうか。

「安全」とは、自然災害に対する備えがあり、犯罪のない、交通安全が確保された状態、「安心」とは、近助・共助・公助が機能し、相互に信頼できる支え合える仕組みが維持されている状態、と定義します。

これらをハード面とソフト面から捉えて、改定する新しい「まちづくりプラン」は主にハード面からの取組みを中心に据え「誰もが安全・安心を実感できる緑豊かなまちづくり」を目標に推進します。なお、ソフト面からの取組みは、地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の山下地区別計画として推進します。

この目標を達成するために、次の4つの切り口で取り組んでいきます。

- (1) 安全・安心で快適なまちづくり 《防災・防犯、歩行者空間》
- (2) 農と住が調和した緑豊かなまちづくり 《農業・自然環境》
- (3) 相互信頼のもとで相互に支え合えるまちづくり 《交通、活動支援》
- (4) 生き甲斐を育む活動の場・居場所のあるまちづくり 《活動拠点、活動支援》

目標達成に向けた具体的な方針をそれぞれ定めます

A 活動拠点

既存施設の有効活用を進めるとともに新たな地域活動に対応した場の構築と整備を検討します。

- ① 山下地域交流センターは、耐震化を進め安全安心を確保し、地域の人達の集いの場として活用促進を図ります。
- ② 山下みどり台小学校コミュニティハウスについては、さらに使いやすい施設となるよう改善を図ります。また、小中学校などのグラウンドや施設の利用を今後も継続して利用できるように学校との連携を図ります。
- ③ 横浜北西線トンネル上部公有地を活用して建設される山下地域ケアプラザ内に、地域の人達の集いの場を作り、利用を図ります。
また、上部利用施設として建設される消防団訓練所も、地域の人達への利活用を図ります。
- ④ 洪水対策として整備される恩田川遊水地の上部利用施設は、地域の人達の要望を取り入れ構築し、利活用を図ります。



○山下地域交流センター



○山下地域ケアプラザの建物パース

B 交通・歩行者空間

駅へのアクセスや地区内交通網の充実に向けた検討を進めます。また、安全・安心に歩行できる空間づくりを目指します。

- ① 都市計画道路中山北山田線の開通に合わせて中山駅へ延伸したバス路線の利用促進を図り、増便など利便性を改善するとともに、川和町駅への接続運行や山下地域ケアプラザへの交通網の確保を目指します。
- ② 住民どうして助け合い移動できる仕組みとして導入した山下地区「ささえあいバス」の運行の常態化を図り、高齢者を中心とした、車を運転しない方々の地域活動への参加や買い物を支えます。
- ③ 歩道や車道が狭く、通学路や幹線道路における歩行者空間の危険箇所が多い山下地区の特性を考慮し、学校・地域の方の意見を聞きながら、路面標示や交通規制などの安全対策を検討し改善を図ります。あわせて、バリアフリーにも配慮するなど、快適で安全安心な歩行者空間づくりを目指します。
- ④ 狭い道路や歩道の拡幅については、地権者の理解を得ながら行政に働きかけ、長期的な視点で改善に努めます。



○現在の中山北山田線（青砥町付近）



○山下地区「ささえあいバス」

C 農業・自然環境

次世代につなぐ新たな農地の活用について検討します。また、緑と水のある豊かな自然環境を保全します。

- ① 直売所や朝市などにより地産地消を促進するとともに、農に関する情報発信や農とふれあう環境づくりを進めます。



○朝市の様子（北八朔上自治会館広場）

- ② 認定市民菜園や栽培収穫体験ファームの整備などによる休耕地の利用を促進し、次世代への農業の継承と農地の保全を図ります。
- ③ 市有地での地域菜園利用を継続し、子供たちの農業体験と環境学習の機会を促進します。
- ④ 中山駅に近い農地等についてはその立地を生かし、周辺地域の機能を補完するような都市機能の導入について、地権者及び地域住民の意向を踏まえてその可能性を検討します。
- ⑤ 北八朔公園の貴重で美しい自然を永く保全し、地域の人達の憩いの場として利用し続けられるように保存管理を図ります。
環境学習や地域のイベントなどで利用できる北八朔公園以外の樹林地や斜面緑地などは、地域の貴重な資源として地権者の協力を得ながら保全を図ります。



○北八朔子ども会菜園



○北八朔公園内「ほたる橋」

D 防災・防犯

大規模災害に対応した自助・共助の仕組みづくり、地域防災拠点の充実を検討します。また、防犯灯などの設置や防犯パトロールにより地域に安心を届けます。

- ① 大規模自然災害の多発化に対応し、各世帯における減災行動や備蓄の必要性を啓発・促進して自助力を高めるとともに、「防災ささえあいカード」により要援護者の世帯を事前に把握し、共助のシステムを検討します。
- ② 大規模地震災害ばかりでなく、風水害に対応した避難所運営や備蓄品の拡充を図ります。また、地域の施設の協力を得ながら、身近な避難場所の確保に努めます。
- ③ 防災協力農地への登録を進め、災害時には地区内外からの避難者を受け入れます。
- ④ 各自治会の防犯活動の促進に加え、青パトによる昼間・小学生の下校時・夜間の防犯パトロールを継続し、地域に安心を届けます。
- ⑤ 暗い歩道への防犯灯や危険箇所への防犯カメラの設置など、犯罪抑止に注力します。
- ⑥ 安全教室の開講や防犯情報の見える化に努めます。



○HAMACOTOILET
(山下小学校地域防災拠点)



○防犯パトロール（青パト）

E 活動支援・ 情報共有化

地域内の支え合いや居場所づくりを支援します。
また、活動内容を周知するため情報の共有化を図ります。

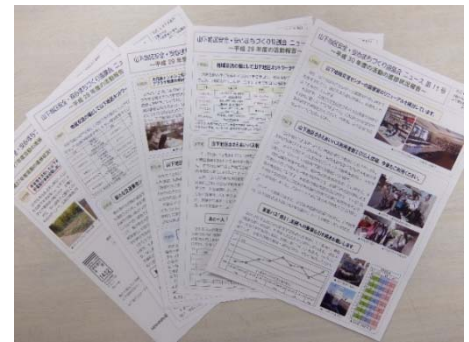
- ① 「チョットした困りごと」に対応する生活支援活動を推進します。
- ② サロンの開催など居場所づくりに努め、地域のつながりを高めます。
- ③ まちづくりニュースを発行し、情報の共有化を図ります。また、情報通信技術（ICT）の活用を検討します。



○生活支援事業（庭木の刈込作業）



○サロンの様子



○まちづくりニュース

このテーマは、地域福祉保健計画の「みどりのわ・ささえ愛プラン」山下地区別計画と共通のテーマですので、ハード面での取り組みを中心に「安全・安心まちづくりプラン」では取り上げたい。会議の効率化のため、両プランの共同開催を企画します。

☆山下地区安全・安心まちづくりプラン方針図☆

【まちづくり方針図】

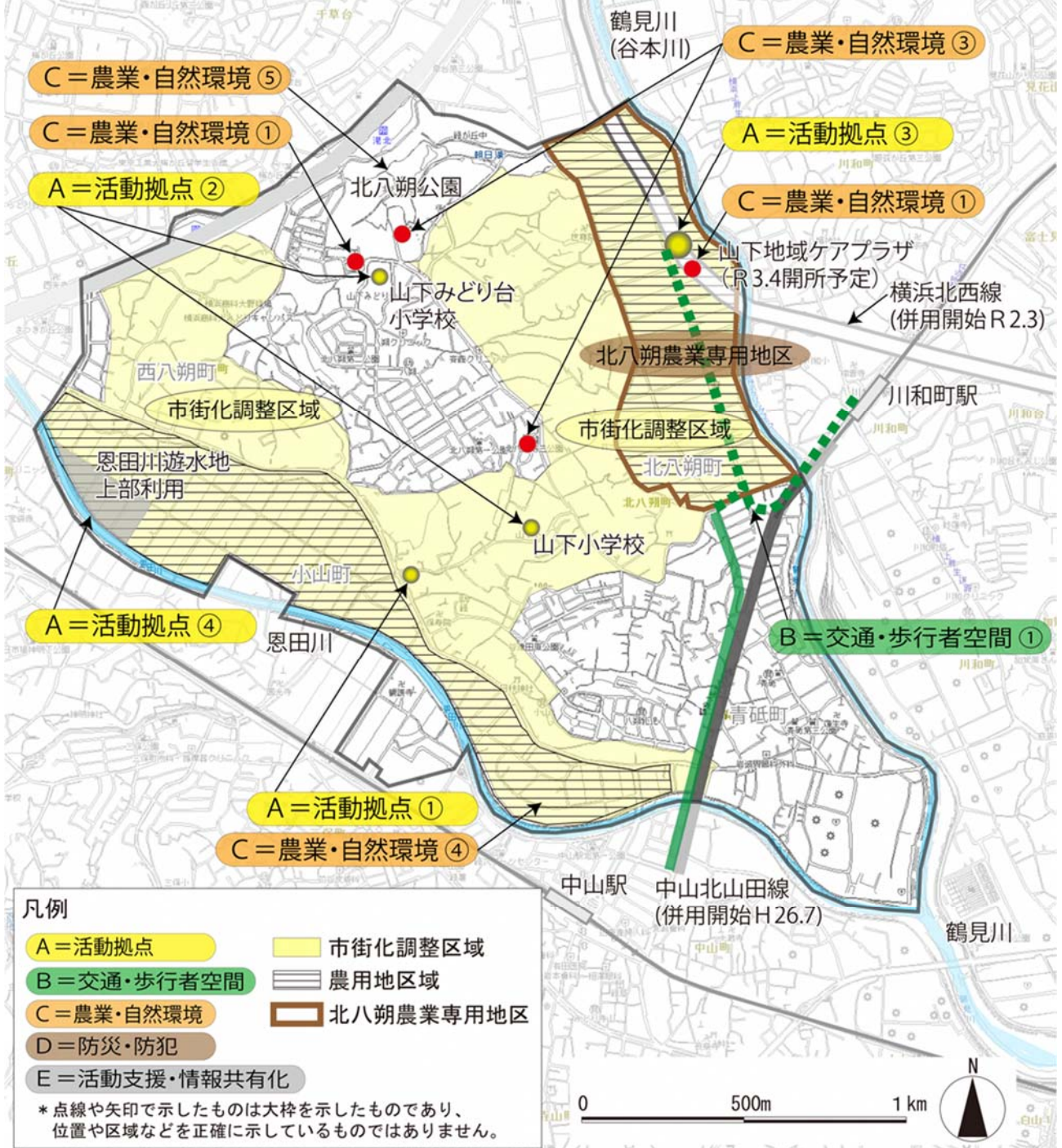
・地区内全体を対象とした項目

B = 交通・歩行者空間 ②~④

D = 防災・防犯 ①~⑥

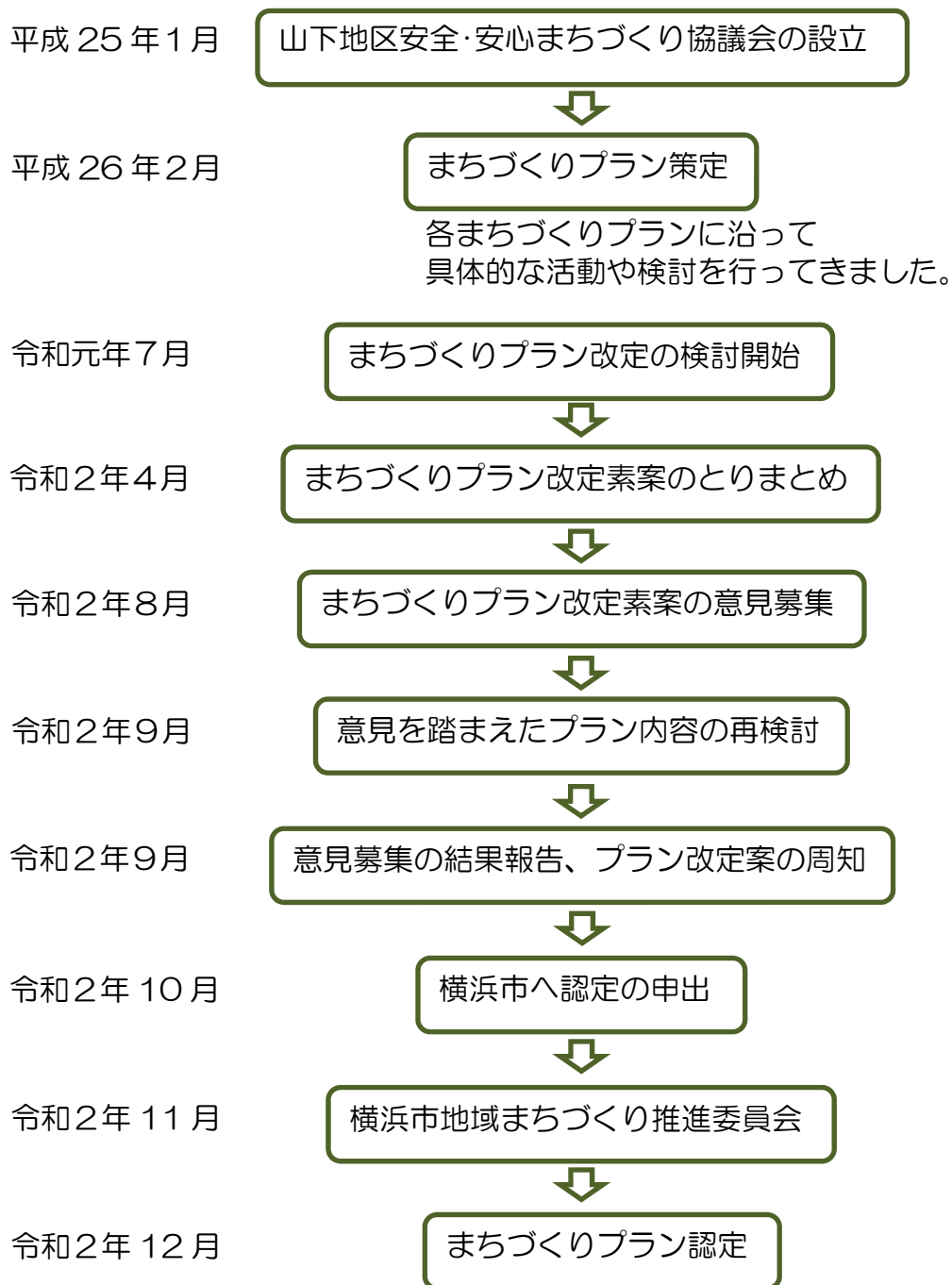
C = 農業・自然環境 ②

E = 活動支援・情報共有化 ①~③



■プラン策定、改定の経過

山下地区安全・安心まちづくり協議会（平成25年1月設立）は、北八朔町における横浜北西線の整備による地区環境の変化を機とし、地区の生活環境向上を目指して、まちづくりプランを策定しました。プラン策定後は、各まちづくりプランに合ったまちづくりを実現するため、具体的な活動や検討を行っていきます。



【連絡先】

一般社団法人 山下地区安全・安心まちづくり協議会
Mail : y.machidukuri@gmail.com

